

第100期 報告書

平成 23 年 4 月 1 日 ▶ 平成 24 年 3 月 31 日まで

BUSINESS REPORT

株主の皆さまへ

株主の皆さまには、平素から格別のご支援を賜わり、厚く御礼申し上げます。 ここに小松精練株式会社の平成24年3月期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで) の業績についてご報告申し上げます。

株主の皆さまには、平素から格別の ご支援を賜わり、厚くお礼申し上げま す。

当連結会計年度におけるわが国経済 は、東日本大震災の影響による景気の 低迷から緩やかに持ち直す兆しが見ら れたものの、欧州債務問題による世界 経済の減速懸念や円高の長期化等によ り、景気の先行きは依然として不透明 な状況で推移いたしました。



このような状況のなか、当社グループ は市場に新しい価値の創造と、独自性 の高い技術力及び素材力による市場創 造を図り、収益拡大による成長戦略を 目指しました。特に主力である輸出部 門については、為替の影響を受けるも、 円高抵抗力の高い商品群の新規投入等 による市場の深耕を図り、加えて円高 メリットを生かした粗原料の輸入拡大 を積極的に図るなど、収益拡大に貢献 しました。また、新規事業の柱となる 環境関連については、ゼロ・エミッショ ン化から誕生した環境材料「グリーン ビズ | が節電と C O 2 削減が同時に可能 な材料として、大型商業施設や学校等 に採用されるなど着実に実績を重ねま した。

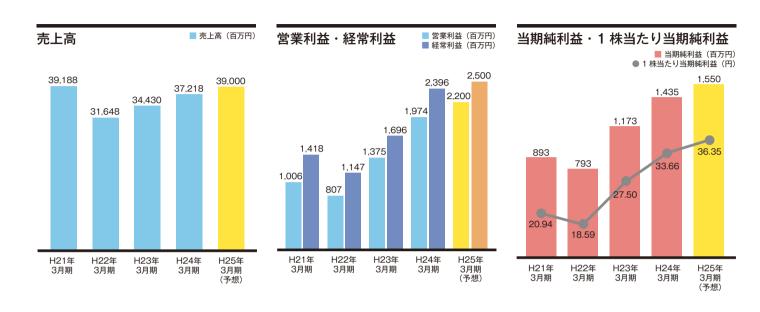
以上の結果、当連会計年度の売上高 は、前期比8.1% 増の37,218 百万円、営 業利益は前期比43.5% 増の1,974 百万円、 経常利益は前期比41.3% 増の2,396 百万 円、当期純利益は前期比22.3% 増の1,435 百万円となりました。

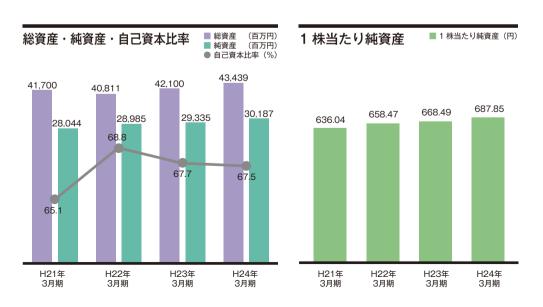
この業績を踏まえ、当期の期末配当 金につきましては、普通配当は1株当 たり6円とさせていただき、中間配当 金と合わせた年間配当金は1株当たり12円となりました。

今後におきましては、米国や新興国の景気回復が期待される一方、欧州債務問題の長期化や原油などの原材料価格の高騰、更には長期化する円高など、依然として不透明であり、引き続き厳しい状況が続くものと予想されます。当社グループは引き続き「挑戦と変革」を推し進め、ブランド力の強化と企業価値の向上、更に世界市場を見据えたグローバル戦略の推進、加えて低エネルギー社会実現に向けた事業体制の強化に努める所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後 とも一層のご理解とご支援を賜わりま すよう、心からお願い申し上げます。

> 小松精練株式会社 代表取締役社長 池田 哲夫





次期の見诵し

今後の経済環境については、欧州債務問題の長期化や原油価格の高騰、更に長期化する円高に加えて、新興国企業のキャッチアップによる国際競争の激化など、企業を取り巻く環境は厳しさを増すと予想されます。このような状況のなか、当社グループは引き続き「挑戦と変革」を推し進め、ブランド力の強化と企業価値の向上、更に低エネルギー社会実現に向けた事業体制の強化を図ってまいります。具体的には

① 先端ファブリックの開発・新規市場の開拓

グループ内や国内外の有力企業、産官学との戦略的連携(クラスター)の強化を図り、感性・機能性の両面でグローバル・マーケットに通用する先端ファブリックのスピーディな開発に努め、主力のファッション、スポーツ分野、並びに資材ファブリック部門において新素材の投入による積極的な事業推進を図ります。

② 海外生産販売の拡大

国内における生産販売を維持しつつ、海外における生産販売を強化・拡大してまいります。具体的には小松精練(蘇州)有限公司との商品開発並びに生産販売における連携を強化させ、高度化した商品の生産ラインの増設を行うと共に、海外の同業企業との提携も視野に入れた最適生産最適販売を加速させ、世界市場での拡大を図ります。

③ 環境対応経営及び環境適応ビジネスの推進

地球環境保護を目的とした当社環境管理宣言に基づき、省エネ・省資源生産や低環境負荷生産、更にゼロ・エミッション化にも積極的に取り組み、環境対応経営の強化を図ります。また、低エネルギー社会の実現に向けた環境材料や低環境負荷素材等の開発とそれらの市場導入を図り、環境適応ビジネスの推進を強化します。

これらの取り組みを、グループー丸となり 推進することにより、平成25年3月期の業績 を次の通り見込んでいます。

次期の見通し (平成 25	前期比	
■売上高	39,000 百万円	4.8%增
■営業利益	2,200 百万円	11.4%增
■経常利益	2,500 百万円	4.3%增
■当期純利益	1,550 百万円	8.0%增

事業別売上状況

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

■繊維事業

衣料ファブリック部門は、当社の得意とする高 感性・高機能素材の開発と市場導入の積極的な推 進により、国内外間わずファッション衣料分野並 びにスポーツ衣料分野が拡大しました。特に日・ 中・韓・北米に対して影響力のある欧州市場にお いては、金融不安の影響が懸念されたものの、高 感性・高機能素材群の新規投入や販売代理店との 関係強化により、ファッション衣料分野の売上が 拡大しました。

資材ファブリック部門は、東日本大震災の影響を受け自動車生産台数の著しい減少から回復に向かいましたが、タイ洪水の影響等もあり、車輌分野は微減に留まりました。リビング分野については市場ニーズに合致した遮熱・省エネ効果の期待できるファブリック群が伸張し、順調に拡大しました。

以上の結果、当連結会計期間の当事業の売上高 は36,210百万円(前期比8.2%増)となりました。

■その他事業

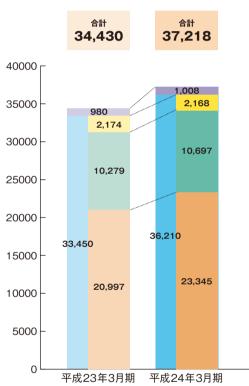
物流分野が堅調に推移し、当連結会計期間の当 事業の売上高は 1,007 百万円(前期比 2.9%増)と なりました。

13.5%

1.405百万円

■事業セグメント別売上状況

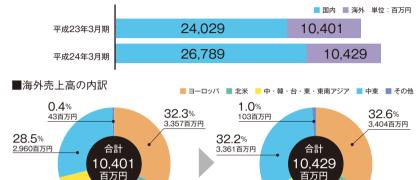
単位:百万円





消費地別売上状況

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで



16.5%

1,722百万円

平成23年3月期

■国内売上高

22.3%

2.319百万円

高感性・高機能差別化素材群の新規市場 **導入によりファッション・スポーツ分野が** 拡大しました。特に、爆発的なヒットとなっ た独自性の極めて高い差別化軽量素材「カ ルバック|がインナーからアウター、防寒 具まで様々な用途に採用され大幅拡大しま した。一方、リビング分野においては節 電・遮熱・断熱効果が期待される特殊機能 性素材群が堅調に拡大し、医療福祉分野で は湿布材等の機能性特殊ニット素材が順調 に拡大しました。加えて素材別では、節電・ クールビズにマッチしたトリアセテート素 材「トレ・ドライ」や、スタンディングファ ブリック「KONBU」が新しい市場を開拓 するなど、戦略商品は順調に拡大し、前期 比 11.5% 増の 26.789 百万円となりました。

■海外売上高

20.7%

2.156百万円

為替の影響を受けるも、円高抵抗力の高い 差別化高感性素材やオンリーワン素材の積 極的市場投入等により売上が拡大しまし た。特に欧州市場においては、金融不安の 影響が懸念視されるなか、ファッション分 野を中心に積極的に市場導入した、エレガ ントでドレッシーな新質感ファブリック 「ハニービンテージ | やデジタルプリント ファブリック「モナリザ」が新規顧客開拓 につながるなど、順調に拡大いたしました。 一方、北米市場においては車両内装関連が 落ち込み、前期比売上減となるものの、中 東市場においては新商品の積極的投入と、 ドバイを中心とした中東経済の同復基調が 相乗効果となって、売上拡大に繋がりまし た。以上の結果、前期比 0.3% 増の 10,429 百万円となりました。

平成24年3月期

緑豊かな街づくりに寄与します。

人と環境が調和した、これからの街づくりに、「グリーンビズ」は欠かせない。と私たちは考えます。



超微多孔性発泡セラミックス グリーンピズ R R

ヒートアイランド対策の決定版! 「グリーンビズ」は染色排水の浄化過程で生じた余剰バイオマスケイクに能登産の 珪藻土や粘土を混ぜて1000℃以上の高温で焼き上げて生成された保水セラミックス は業土や粘土を混ぜて1000℃以上の高温で焼き上げて生成された保水セラミックスパネル。超微多孔性に富み、大量の空気と水分を含むこの素材は、高い断熱性と蒸散作用を持ち、「夏涼しく、冬暖かい」空間を実現します。屋上緑化や壁面緑化の基盤として、また路面用のインターロッキングブロックの舗装材として夏の電力不足を補うエコ建材として、今、建設土木業界を初め各方面から注目を集めております。 補うエコ建材として、今、建設土木業界を初め各方面から注目を集めております。





打ち水効果で太陽光パネルの表面を 冷却し、発電効果 UP に役立ちます。

水分を吸水・保水し、ブールサイドでも 水溜りをつくらず、滑りにくくします。

屋根に敷設すれば、室内への流入熱、室内からの流出熱を削減できます。



高い吸水・保水はもとより、植物に 必要な有効成分が成長を支えます。









吸音・遮音に優れ、屋根に打ちつける 雨音をおよそ10分の1に軽減します。



効果的な断熱を実現し、節電をはじめ CO2削減など環境へ配慮します。

消音に



遮音性に効果を発揮し、自動車が 行き交う走行中のノイズを遮音します。



TOPICS

展示会紹介

世界最大の高機能フィルム展示会 「高機能フィルム技術展 フィルムテック ジャパン」

期間:4月11日~13日 場所:東京ビッグサイト



小松精練は、非繊維分野への本格的な参入を図るべく、ファブリック中心に長年培ってきたポリウレタン薄膜加工技術を駆使し開発した高機能フィルムを出展し、当社の優れたフィルム加工技術を産業資材業界に向けて発信しました。当展示会ではテキスタイルを使用しないフィルム単体での展示・訴求を行ない、様々な分野に向けて当社の高機能フィルムを提案しました。出展した素材の中でも、電磁波ノイズ対策シートや、有機ELディスプレイ用の密着充填封止材「KFS レジン」といった電材関連向けの素材に注目が集まり、国内外の有名家電メーカから問い合わせが殺到するなど、産業資材業界に対して当社の認知度を高める絶好の機会となりました。

国際競争力の高い商品の開発を強化 海外の展示会に積極的に出展

小松精練は、グローバル・マーケットに通用する差別化商品の開発と市場セグメンテーションに基づいた商品戦略の推進により、国内外間わず、精極的な市場導入を図っています。

特に日・中・韓・北米に対しての影響力のある欧州市場については、攻めの姿勢を崩さず、積極的な投資を図っています。年2回フランス・パリで開催される世界最高峰の服飾見本市「プルミエール・ヴィジョン」には今年2月で19回連続出展を行ない、毎回、パリ発で新素材を全世界に向けて発表し、当社の素材力・開発力がトップメゾンから認められています。一方で、経済発展が著しい中国や韓国でも積極的に個展を開催し、海外での新規顧客開拓、並びに販路拡大を図っています。

当社は今後もグローバル・マーケットを見据えた商品戦略と市場導入を 進め、世界中の人々から選ばれる企業を目指していきます。



中国個展(2011年4月)



ミラノ個展(2012年2月)



プルミエール・ヴィジョン(2012年2月)



韓国個展(2012年5月)

新商品発表

高級なヴィンテージ感を付与させた新質感素材「テクノビンテージFL」

2012年2月

「テクノビンテージFL」は、欧州市場をはじめとして世界的に人気の高い光沢感のある軽量高密度ナイロン素材を採用いただいているお客様から「軽量感を維持しつつ、表情がマットでヴィンテージ感のある素材開発をしてほしい」というリクエストをもとに開発した素材です。「テクノビンテージFL」は"高級なヴィンテージ感"と"ダメージを与えられたような鈍い光沢感"が特徴で、今年2月にフランスのパリで開催された世界最高峰の服飾見本市「プルミエール・ヴィジョン」でプレス発表したところ、ファッショントレンドに敏感な欧州のお客様から高い評価を得ました。軽量ナイロン素材に新たな旋風を吹込む新素材であり、この技術によって光沢感や艶感のエレガントな表情からマットでヴィンテージ感あるカジュアルな表情まで、一つの素材に対して多彩な表現が可能になりました。





4つの"快適"を装備した 透湿防水ファブリック「QUATTRONI(クアトローニ)」

2011年12月

小松精練は、「軽さ」「薄さ」「柔らかさ」を極めた透湿防水ファブリック「クアトローニ」を開発しました。「クアトローニ」は、表地、裏材、間に挟み込むフィルムという3つの材料がベストミックスされた、"軽い""薄い""柔らかい"そして"ムレない"という4つの特徴を持った極薄膜3層ファブリックです。フィルムの樹脂開発から取組み、従来の2分の1の厚さでも十分な強度と高いストレッチ性を維持した薄膜フィルムの技術確立によって、3層品と感じさせない高感度の機能性素材が完成しました。スポーツ用途のみならず機能性を併せ持つファッション用の素材として、「スポーツを軽やかに、ファッションをアクティブに」をコンセプトにした完成度の高い快適テキスタイルです。

熱可塑性樹脂を用いた 炭素繊維ストランドロッド の開発

小松精練は、建築物の補強に使われる 「鉄筋」の代替えとして、先端素材であ る炭素繊維と熱可塑性樹脂を組み合わせ た「炭素繊維ストランドロッド」の開発 を進めています。今回、当社が開発した 「炭素繊維ストランドロッド」は、直径 1 cm程度のロッドで大型バス 1 台 (10 t) を吊り上げるほどの強度を保ち、しかも 重さは従来の鉄骨に比べ4分の1と軽量 なため、搬送エネルギーの低減化や現場 施工性に優れています。さらに錆びない という特徴があり、冬場の凍結防止剤や 沿岸部での鉄筋の腐食が問題となってい る橋梁や、震災以降、急速に関心が高まっ ている耐震補強工法の材料として、建設 業界から多くの期待が寄せられていま す。この新技術の開発及びロッドを用い た耐震工法の検証、確立により国内既存 の建造物の耐震性を向上させ、より安全 な都市づくりに貢献します。



眦ੋ財務データ

連結貸借対照表の要旨

平成24年3月31日現在

資産の部

科目	当期	前期	増 減
■流動資産	27,014	25,383	1,630
現金及び預金	7,455	6,955	499
受取手形及び売掛金	8,203	8,070	132
有価証券	5,980	5,380	599
たな卸資産	5,024	4,553	471
繰延税金資産	255	172	82
その他	144	335	△ 190
貸倒引当金	△ 47	△ 83	35
■固定資産	16,425	16,716	△ 291
有形固定資産	8,232	8,184	48
建物及び構築物	3,162	3,252	△ 89
機械装置及び運搬具	2,379	2,581	△ 202
土地	2,450	2,132	318
建設仮勘定	23	63	△ 40
その他	216	154	62
無形固定資産	249	226	22
投資その他の資産	7,943	8,305	△ 361
投資有価証券	6,578	6,775	△ 196
繰延税金資産	1,051	1,265	△ 214
その他	315	287	28
貸倒引当金	△2	△ 22	20
資産合計	43,439	42,100	1,339

単位:百万円

負債の部

科目	当 期	前期	増 減
■流動負債	9,268	8,594	673
支払手形及び買掛金	6,564	6,515	49
短期借入金	99	310	△ 210
未払法人税等	647	114	533
賞与引当金	381	297	84
その他	1,575	1,357	217
■固定負債	3,983	4,170	△ 186
退職給付引当金	3,469	3,640	△ 170
役員退職慰労引当金	366	371	△ 5
環境対策引当金	11	11	
その他	136	146	△ 10
負債合計	13,252	12,764	487

純資産の部

科目	当 期	前期	増 減
■株主資本	29,458	28,788	670
資本金	4,680	4,680	
資本剰余金	4,720	4,720	
利益剰余金	20,278	19,604	673
自己株式	△ 221	△ 217	△ 3
■その他の包括利益累計額	△ 129	△ 277	148
その他有価証券評価差額金	136	△ 19	156
為替換算調整勘定	△ 265	△ 258	△ 7
■少数株主持分	858	824	33
純資産合計	30,187	29,335	852
負債・純資産合計	43,439	42,100	1,339

連結損益計算書の要旨

単位:百万円

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

科目	当 期	前期	増 減
■売上高	37,218	34,430	2,787
売上原価	30,164	28,279	1,884
売上総利益	7,053	6,150	903
販売費及び一般管理費	5,078	4,774	304
■営業利益	1,974	1,375	598
営業外収益	540	405	135
受取利息	48	46	2
受取配当金	97	70	26
持分法投資利益	205	168	37
その他	188	120	68
営業外費用	118	85	33
支払利息	1	5	△ 3
為替差損	69	67	1
その他	47	12	35
■経常利益	2,396	1,696	700
特別利益	0	11	△ 11
固定資産売却益	0	2	△ 1
投資有価証券売却益	0		0
その他		9	△ 9
特別損失	108	164	△ 56
固定資産売却損	3	5	△ 1
固定資産除却損	16	22	△ 5
投資有価証券売却損	87	92	△ 4
その他	0	43	△ 43
■税金等調整前当期純利益	2,289	1,543	745
法人税、住民税及び事業税	771	232	538
法人税等調整額	44	128	△ 84
■少数株主損益調整前当期純利益	1,473	1,182	290
少数株主利益	38	9	28
■当期純利益	1,435	1,173	262

連結株主資本等変動計算書要旨

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

当期

			株主資本			その他の包括利益累計額				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計	少数株主 持分	純資産 合計
平成23年3月31日残高	4,680	4,720	19,604	△ 217	28,788	△ 19	△ 258	△ 277	824	29,335
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△ 511		△ 511					△ 511
当期純利益			1,435		1,435					1,435
持分変動差額			△ 249		△ 249					△ 249
自己株式の取得				△ 4	△ 4					△ 4
自己株式の処分			△0	0	0					0
株主資本以外の項目の変動額						156	△ 7	148	33	182
連結会計年度中の変動額合計			673	△ 3	670	156	△7	148	33	852
平成 24 年 3 月 31 日残高	4,680	4,720	20,278	△ 221	29,458	136	△ 265	△ 129	858	30,187

前期

			株主資本			その他	の包括利益	累計額		純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計	少数株主 持分	
平成 22 年 3 月 31 日残高	4,680	4,720	18,939	△ 212	28,128	94	△ 128	△ 34	891	28,985
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△ 511		△ 511					△ 511
当期純利益			1,173		1,173					1,173
持分変動差額			4		4					4
自己株式の取得				△ 6	△ 6					△ 6
自己株式の処分			△0	0	0					0
株主資本以外の項目の変動額						△ 114	△ 129	△ 243	△ 66	△ 309
連結会計年度中の変動額合計			664	△ 5	659	△ 114	△ 129	△ 243	△ 66	349
平成 23 年 3 月 31 日残高	4,680	4,720	19,604	△ 217	28,788	△ 19	△ 258	△ 277	824	29,335

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

単位:百万円

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

単位:百万円

科目	当 期	前期	増 減
■営業活動によるキャッシュフロー	3,069	2,254	815
税金等調整前当期純利益	2,289	1,543	745
減価償却費	1,359	1,285	73
引当金の増減額(減少:△)	△ 148	△ 327	179
売上債権の増減額(増加:△)	△ 133	△ 404	271
仕入債務の増減額(減少:△)	49	1,209	△ 1,159
たな卸資産の増減額(増加:△)	△ 471	△ 538	66
法人税等の支払・還付(支払:△)	△ 241	△ 372	130
その他	366	△ 141	508
■投資活動によるキャッシュフロー	△ 2,409	△ 635	△ 1,774
固定資産の取得による支出	△ 1,239	△ 557	△ 682
固定資産の売却による収入	4	33	△ 28
定期預金の預入・払戻(預入:△)	△ 139	1,084	△ 1,224
有価証券の取得・償還(取得:△)	△ 949	△ 1,400	450
投資有価証券の取得・売却(取得:△)	△ 106	△ 37	△ 69
その他	21	241	△ 219
■財務活動によるキャッシュフロー	△ 727	△ 707	△ 19
短期借入金の純増減額(減少:△)	△ 210	△ 189	△ 20
配当金の支払額	△ 513	△ 511	△ 1
その他	△ 3	△ 5	2
■現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△ 32	32
■現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△ 67	878	△ 946
■現金及び現金同等物の期首残高	7,018	6,139	878
■連結範囲の変更に伴う影響額	57		57
■現金及び現金同等物の期末残高	7,008	7,018	△ 10

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 定時株主総会・期末配当 3月31日

中間配当 9月30日

株主名簿管理人及び 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務 大阪市中央区北浜四丁目5番33号

取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 郵便物送付先 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 0120-176-417

URL http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html

1単元の株式の数 1,000株

公告の方法 電子公告(当社ウェブサイトに掲載)

http://www.komatsuseiren.co.jp/investor/index.html ※事故やその他やむを得ない事由が生じた場合、 日本経済新聞に掲載して行ないます。

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部

住所変更、配当金受取方法の指定・変更、単元未満株式の買取・買増等について

株主様が口座を開設されている証券会社等にお申し出ください。また、証券会社に口座を開設されていない株主様は、特別口座の口座管理機関の上記電話照会先にお申し出ください。なお、単元未満株式の買取・買増の当社にかかる手数料はいずれも無料となっております。

役員・執行役員

平成24年6月22日現在

役 職	氏 名
代表取締役会長	中山 賢一
代表取締役社長	池田 哲夫
専務取締役	髙木 泰治
常務取締役	山竹 俊樹
取締役	奥谷 晃宏
取締役	尾野寺 賢
取締役	中山 大輔
取締役	首藤 和彦
取締役	天雲 一裕
取締役	尾川 勝也

役 職	氏 名
監 査 役	竹内 和也
監 査 役	石倉 幸雄
監 査 役	阪根 勇
監 査 役	根上 健正
執行役員	折本 忠
執行役員	向 潤一郎
執行役員	米谷 俊泰
執行役員	米澤 和洋
執行役員	金法 順正
執行役員	毛利 祥規
執行役員	茶谷 秀樹
執行役員	松尾 千洋

発行済株式数・株主数

発行済株式数 ● 43,140,999株

株主数 ● 3,504名

所有者別分布状況

大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
東レ株式会社	2,649 千株	6.21 %
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,231 千株	5.23 %
株式会社北國銀行	2,113 千株	4.96 %
小松精練松栄会	1,468 千株	3.44 %
日本生命保険相互会社	1,467 千株	3.44 %
株式会社北陸銀行	1,263 千株	2.96 %
三菱商事株式会社	1,250 千株	2.93 %
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,242 千株	2.91 %
三井住友信託銀行株式会社	1,230 千株	2.88 %
株式会社クラレ	1,090 千株	2.56 %

(注) 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

会社の概況

 商
 号
 小松精練株式会社
 大阪営業所
 大阪内大阪市北区梅田2丁目2番22号

 設立年月日
 昭和18年10月8日
 (ハーピスENTオフィスタワー8階)

資 本 金 46億8,042万円 東京営業所 東京都中央区銀座3丁目9番7号 (トレランス銀座ビルディング8階)

在 T929-0124 北陸営業所 石川県能美市浜町ヌ167番地 石川県能美市浜町ヌ167番地 (小松精練株式会社 本社2階)

本社工場 同 上 上海事務所 中国・上海市延安西路2200号 美川工場 石川県白山市鹿島町1号7番地1 (上海国際貿易センター1913号)

グループ企業

 小松精練(蘇州)有限公司
 中国・江蘇省蘇州市
 株式会社ヤマトヤ
 大阪市東住吉区

 ケーエス染色株式会社
 石川県能美市
 株式会社コマツインターリンク
 石川県能美市

 株式会社ケイズテック
 石川県白山市
 小松エージェンシー株式会社
 石川県能美市

